

市民意見の聴取及び計画への反映について

これまでの審議会や部会における検討も踏まえ、計画改定の途中段階における市民意見の聴取として、子ども（小中学生）を対象としたワークショップを8月22日（土）に、一般市民（高校生以上）を対象としたワークショップを8月29日（土）に開催しましたので、内容を御報告させていただくとともに、改定後の計画への反映について検討を行います。

1 ワークショップ開催概要

（1）子どもを対象としたワークショップ

ア 日 時 平成27年8月22日（土） 13時00分～14時30分、15時00分～17時00分

イ 場 所 京エコロジーセンター 1階シアター

ウ テーマ ぼくたち・わたしたちが夢見る京都の環境

エ 内 容

前半の部（13:00～14:30：事前申込いただいた方を対象に開催）

- ① クイズ形式で京都の環境について学習
- ② グループに分かれて、自分たちが大人になった時をイメージし、京都の「あってほしい姿」について付箋に記入し、意見やアイディアを交換
- ③ 似たような意見やアイディア同士をまとめていき、項目名を記入
- ④ 各グループの意見発表及びまとめ

後半の部（15:00～17:00：エコロジーセンターに来館の小中学生及び保護者を対象に開催）

- ① クイズ形式で京都の環境について学習
- ② 前半の部と同じように、京都の「あってほしい姿」についての御意見を用紙に記入して提出

オ 参加者

	子ども	保護者	合計
前半の部（事前申込）	9人	8人	17人
後半の部（当日来館者）	16人	13人	29人
合 計	25人	21人	46人



学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学生以上	合計
人数	4人	8人	3人	2人	3人	5人	0人	25人



(2) 一般市民を対象としたワークショップ

ア 日 時 平成27年8月29日(土) 14時00分～16時30分

イ 場 所 キャンパスプラザ京都 2階ホール

ウ テーマ 子どもたちが思い描いた京都の環境の実現に向けて

- エ 内 容 ① 京都市環境基本計画、子どもたちからいただいた御意見について本市から説明
② 子どもたちの意見を踏まえながら、「子どもたちに残したい京都の環境」についてグループ内で意見交換
③ グループのメンバーを入れ替えた後、上記②の実現のためにどのようなことをすればよいか、「私たちや家族が取り組むこと、地域コミュニティで取り組むこと、行政とともに取り組むこと」の3つの視点で整理
④ 上記②及び③によりグループの意見を発表してまとめ

オ 参加者

年齢層	20代以下	30代	40代	50代	60代以上	合計
人 数	9人	7人	4人	2人	8人	30人



(3) その他の意見聴収

ワークショップを補完するものとして、京エコロジーセンターに「みんなが夢見る京都の環境」というテーマで、来館者からの御意見を募集し、いただいた御意見を館内に掲示することで、来館者が御意見を共有しつつ、新たに御意見を書いていただくこととした。

また、いただいたご意見については、上記ワークショップにおいても紹介し、参加者に御覧いただけるようにした。

ア 掲示期間 8月8日(土)～9月12日(土)

イ 御意見の数 58件



2 いただいた御意見

(1) 子どもを対象としたワークショップにおける御意見（別紙1）

子どもたちからいただいた御意見の大半は自然環境に関するものであった。代表的なものとして、美しい自然が保たれている内容について、「空気がきれい」「空がきれいで星がたくさん見られる」「川の水がきれいでホタルや魚がたくさん」「緑がいっぱい」などであり、自然環境の保全、生物多様性の保全に関するものである。

一方で、子どもの目からも、地球温暖化（「暑すぎない京都」「自動車に頼らない交通」）、ごみの減量、地産地消、くらしの安心に関する御意見もあった。

(2) 一般市民を対象としたワークショップにおける御意見（別紙2）

一般市民からは、単に子供たちからの意見を踏まえながら、目指す環境の姿について検討しただけではなく、その実現のために①自分・家族で取り組むこと②地域・コミュニティで取り組むこと③行政とともに取り組むこと、の3つの視点からの御意見をいただいた。

幅広い分野からの御意見をいただいた中で、地球温暖化に関しては交通分野が、生活環境や自然環境に関しては鴨川や文化・伝統といったような、比較的身近な内容についての御意見が多かった。また、「生物多様性」「地産地消」といったキーワードが出された。

(3) 京エコロジーセンター来館者からいただいた御意見について

概ねワークショップでいただいた御意見と同様であった。

ワークショップでいただいた御意見と併せて計画策定の参考とする。

3 環境基本計画への反映について

いただいた御意見は、「京都市環境基本計画骨子（案）」に示した「第2章 目指す環境像」にフィードバックし、「はばたけ未来へ！京プラン」や「各分野別計画」とともに市民意見を十分考慮したうえで「第3章 施策体系」を策定したという説明につなげる。

一方で、資料編において具体的な御意見の方向性について、挿絵などを交えて分かりやすく取り上げる（現行計画における概要版の1～2ページ見開き参照）こととする。

また、一般市民を対象としたワークショップのうち、「私たちや家族が取り組むこと、地域コミュニティで取り組むこと、行政とともに取り組むこと」においても御意見をいただいております、上記箇所以外（環境配慮指針等）においても、可能な限りの反映を行う。

子ども対象ワークショップでの御意見（平成 27 年 8 月 22 日）

低炭素社会

（地球温暖化防止など）

こんなふうになって欲しいな

温暖化

暑すぎない京都、涼しくしてほしい

交通

バイクと車がない世界になってほしい

こんなことをしたら良いのにな

温暖化

エアコンだけではなく、ミストも増やして涼しくする。

交通

電車やバスを中心に使って普段は歩く

「自転車の日」を作ってその日は自動車には乗れない

自然共生型社会

（生活環境・自然環境の

保全、生物多様性など）

こんなふうになって欲しいな

全般

自然がもっと増えてほしい、自然が身近にある京都

空気

星がたくさん見えるような空、星がきれいに見える所
夜に流れ星がいっぱい出たらいいな
雨がやんで虹がいっぱいできるようなきれいな空
空がいつも青い、空気がおいしい

河川

川の中に魚を増やす、水がきれい
川にホタルがいっぱい出たらいいな

文化

神社や昔からあるものを大切にする

動物

家を出たらホタルが見られる
海に行ったらきれいな魚がいっぱい見られる
生き物を保護する、生き物がたくさん住めるような京都
生き物がいると楽しい気持ちになる
クワガタが捕れる、ちょうちょうがいっぱい見られたらいいな

植物

様々な植物や生き物を増やす
今よりもっと植物が増えてほしい
自然が豊かなところ（緑があるところ）
花がいっぱいある、今の森林や植物を守っていきたい
木がいっぱいのまち

景観

ロープウェーに乗ったら、きれいな自然がいっぱい見られる

こんな遊びができたらうれしいな

きれいな川で川遊びがしたい
公園や遊ぶところを増やす

循環型社会

（ごみ減量など）

こんなふうになって欲しいな

ごみ

ごみがあまり出ないまち、ごみがないきれいなまち

こんなことをしたら良いのにな

ごみ

みんなで町じゅうをそうじする。

その他

こんなふうになって欲しいな

地産地消

近所に畑がもっと増えて、とれた野菜をもっと食べたい

安心

安心して住める京都

こんなことをしたら良いのにな

地産地消

京野菜もいいけれど、新しい野菜を作ってもいい。

全般

ボランティア活動をする

こんな遊びができたら
うれしいな

そり遊びができる

一般市民対象ワークショップでの御意見（平成27年8月29日）

	テーマ1	テーマ2		
		テーマ1の実現に向けてどのようなことをすればよいか		
		自分・家族で取り組むこと	地域・コミュニティで取り組むこと	行政とともに取り組むこと
地球温暖化対策、低炭素、エネルギー	【地球温暖化・低炭素】 ・水素ステーションが整備されている。 ・風が吹き、暑すぎない気候。 【エネルギー】 ・省エネ、身近な発電と再エネ（小水力、太陽光、ごみ発電など）がすすんでいる。 ・原子力発電に依存しないまちになっている。	【地球温暖化・低炭素】 ・節水シャワーなどエコな商品を選んで買う。 ・モノの共有（家電・車）、無駄のない生活を送る。 【エネルギー】 ・節電、省エネ家電、太陽光熱利用を行う。		【地球温暖化・低炭素】 ・水素エネルギーなど低炭素化を推進する。 【エネルギー】 ・川を利用した小水力発電を整備する。 ・雑がみ回収を利用した都市油田プロジェクトを進める。
	交通	・徒歩・自転車・電車・バスでの移動を心がける。 ・エコカーの利用，エコドライブと交通マナー向上を進める。	・自動車や自転車の共同利用を行う。 ・社用車を持たず，レンタカーなどを使う	・自転車の日（No Car Day）を制定する。 ・車の街中乗入れ規制，パーク＆ライドの推進と併せて，駐輪場や自転車道の整備を行う。 ・エコ自動車の共同開発を進める。 ・地下鉄と自転車での移動を推奨（折り畳み式自転車の普及促進，駐輪場代補助等）する。 ・歩道と自転車と車を分離した道路を整備する。 ・一方通行規制で渋滞が少ないまちをつくる。
生活環境・自然環境	【公害の防止】 ・工場は少ない方がよい ・光化学スモッグがなく空気がきれいなまちになっている。 ・都市部でも光害が少なく，星空が良く見えるまちになっている。 【自然の保全】 ・川がきれいで，泳いだり釣りをして遊んだりできる。 ・四季のうつろいがわかる（桜や雪や紅葉）。 ・自然環境と住んでいる街とが共生し，釣り合いが取れている。 ・里山・放置された民有林がよみがえっている。 【都市内の緑化】 ・まちなかに土や緑がいっぱい（グリーンインフラ）である。 ・屋上緑化・都市公園など都市の緑，整理整頓された自然が身近にある。 【生物多様性】 ・様々な生物（鳥（カワセミなど），虫（トンボ，アブラゼミ，ホタルなど））と共存できる環境になっている。 ・絶滅危惧種（オオサンショウウオ，モリアオガエル，アオバズク）の保全，外来生物の脅威がない生態系が保たれている。 ・川に魚がたくさんいる。	【自然の保全】 ・毎日記録写真を撮り続ける（四季を感じる工夫）。 ・地域の自然の恵みを保全・利用ベランダに鉢植を生える。 ・虫や鳥と親しみを持つ。 ・川の清掃活動 【都市内の緑化】 ・垣根の維持管理（都市部の緑の廻路の要素） ・身近な場所で植栽，育成 ・子どもと公園で遊んで親しむ 【生物多様性】 外来種の駆除，逃がさない	【自然の保全】 ・河川清掃やホテルの保全活動 ・森づくり（仲間とさらなる活動をする） ・里山再生プロジェクト（市民の仲間づくり，山林の持主） 【都市内の緑化】 ・地元の緑を（緑地）世話する。 ・都市緑化を（効果的に）進める。 ・地域で講演の管理を行う。	【自然の保全】 ・魚の通り道，安全に川遊びができる設計 ・河川整備，定期的に川のごみ取りをする 【都市内の緑化】 ・木を植える ・遊べる自然インフラ整備 ・歩道への植樹等 ・公園里親制度による支援 ・都市公園の整備
	鴨川	・鴨川で遊ぶ。 ・毎日新鮮な気持ちで鴨川の自然と対話する。	・鴨川をきれいにする・	・鴨川への不法投棄の取り締まりの強化。 ・鴨川の川床補正をして生き物が住みやすい川する。 ・ごみ箱は鴨川河川敷には置かない ・鴨川再生プロジェクトとして，川遊びのできる水辺づくりをすすめる。
	文化・伝統	・和食文化の再興・普及 ・京都の歴史的遺産を気楽に教える機会を子どもたちに与える	・地藏様を祭る（まちをみんなできれいにする気持ちを育む） ・街の歴史変遷を調べる ・町屋の利用（飲食店，ギャラリー）	・町屋の利用（飲食店，ギャラリー）支援

ごみ減量, 循環型	【ごみの減量・リサイクル】 ・古紙, 布類, 雑紙, アルミ缶, 牛乳パック等のリサイクルを町じゅうで徹底してごみのない京都になっている。 ・雑紙の回収が進んで家庭からのごみが減る。 ・生ごみをミミズに食べてもらって堆肥化 【美化・適正処理】 ・ごみがきれいに処理されている。 ・不法投棄少なくしたい	【ごみの減量・リサイクル】 ・余計な買い物をしない ・自分が出すごみの量, 質を記録し続ける ・レジ袋もらわない, エコバッグを常にカバンに入れる ・自炊, マイボトル利用, 分別 ・ご飯を残さない, 食材を使い切る 【美化・適正処理】 ・ごみを入れる袋を持って外出(まちの美化)	【ごみの減量・リサイクル】 ・ムダなもの買わない ・雑がみ分別を家から街へと拡大 ・ごみの分別を地域で勉強会 ・有料ごみ袋(観光客に) ・フードバンクの活用 【美化・適正処理】 ・ごみ当番, 自主的な清掃活動など	・観光客にも有料ごみ袋
ひと・しくみづくり	【環境教育】 ・環境教育が盛ん(身近な川, 生物観察など) ・子どもともに自然を感じられ, また体験できる。 ・環境について, 多くの人の意見を聞き, 自分の考えを具体的に表現できる人が育っている。 【協働】 ・市民が汗を流して奉仕し, みんなで環境をまもる社会になっている。 ・継続の意識をみんなが持って環境保全活動ができる。 【研究・産業】 ・大学において環境を良くする研究が世界最高レベルで進んでいる。 【地産地消】 ・身近にできた作物が食べられる。 【国際】 全ての観光客にきれいだと言われられるまち。	【環境教育】 ・少々無理をしてもごみの出るようなものを買うことを我慢し, 環境をまもるためにはあえて不便を選ぶ必要があることについて教育・しつけができている。 ・早く起きて早く寝る, 健康な体を作ることも環境によい ・コンビニでのごみをポイ捨てる子どもへ環境の大事さを教える。 【地産地消】 京都の木を使う(家, 家具), 地産地消	【環境教育】 ・クリーンハイクなどの啓発, 普及 【協働】 ・自分ひとりでなく, 周りを巻き込む ・いろいろなモノやサービスを共同利用 ・市民参加による環境整備 【地産地消】 ・地域の絵本を作成して地産地消につなげる。 ・エネルギー地産地消(共同出資発電施設等)	【環境教育】 ・自然体験ツアー, 学習ツアー(企業も巻き込む)の企画, 子どもと一緒に自然と触れ合う機会を創出 ・理科好きの子どもを増やす。 ・世代に応じた学習(文化・環境教育)機会提供する。 【協働】 ・周知(巻き込み) ・活動団体への補助 ・環境をの取組ができるよう気軽に集まる場所を提供する。 ・身近な情報共有 ・ ・深夜に外出しないライフスタイルの提唱 【研究・産業】 ・学生の街を活かした計画づくり ・環境に関するビッグデータ情報開示